

# 馬誌

調習部

十九

和書門			
一七三九	二〇五	三〇	六二
函	架	冊	類

武備兵法

內閣文庫	
七三九	和書
六二	函架
五四	冊架

內閣文庫	
番號	和 17395
冊數	62 (20)
函號	154 455







調習部

馬誌卷之十九目錄

淺草文庫



馬習俗

馬誌卷之十九

調習部

馬誌卷之十九

調習部

- 一 駢出ら馬ハも綱うても何少くも目を
- 一 覆へハも若もものかり 騎士用本ハ
- 一 馬を責るときき前足を取小ハ靴の揃へ
- 一 やうありとせ 要馬秘極集
- 一 鞍小のま摺にのま錠小の水心小れま
- 一 不子とり馬ハ乗人の心比如く行りの



あり故に遠山の心といふを能く味ふ  
子なり 軍法義業集 下同

一貫の木通の乗やうは、指物と伏せ鎗  
を、繩に持添、右に腕を後へ流し、右に  
繩を押下け、我身も其方へ傾き、乗

- 一曲騎の條下に○鞍立○横添○水引曲○  
行連○盤立○障子乗○庭中馬廻○梯子  
乗○柏子曲○手渡○屏風渡○平地飛之○

喚子鳥

右の曲馬も武用よは、是らすといふは、  
但し、其輩の鞍を若にせむと思ふは、  
あゝ、智ふべきやとあり 回芳漫録 武馬必用

- 一朝鮮の曲馬八品あり、第一馬上立○第二  
馬上倒立○第三馬上倒曳○第四馬上左右  
○第五馬上横臥○第六馬上仰臥○第七  
脇隠身○第八雙馬○天和三年秋、本朝  
の馬上藝ハ、吳順伯桂子延正徳年中、にハ



馳起澤李斗具あり予ハ吳嶼伯桂子延  
に教日對談し其志を智し  
こも武用は益あり達者ハ可あり  
と云

一 常取つれ大事といふ大切あり事か  
り如何とあるは義家公は為取の内に  
つれ大子といふ事あり是ハ一貫間れ  
手綱れ用ひやうを説り第一鞆立ち  
立ちしとハ初傳り鞆を立ち事あり

鞆流れ時ハ立ち乗らぬハあしす心を  
手綱とく乗ることあり然るゆゑ乗に  
心を立ちハ縁に取らざるゆゑ鞆立ち  
も心ハ立ちすに乘へ故に立ち立ちれと  
し教あり第一鞍杖んと挟まされハ  
驛の強き馬早道を乗しハ挟まぬハ  
らす鞆ハ挟みとも心ハ挟まざるハ  
子なり第一鞍を踏く踏されハ鞆を  
軽くするハ鞍を強くしむ重くする



よハ弱くあじ是も踏込よ心を置ぬす  
に乗あり心もむあといふ歌の心可あり  
身四乗と乗されといふ乗合れよき  
言を面白く思ひ十返乗を二十返も  
乗ゆ馬勞し痛みくう性弱りの  
あり心を付と乗へ——身五引と引  
されといハ強口は馬を憎——と思ふこと  
たうれ畢竟引ゆへ悪きありしは徳ハ  
引ても心ハ引られといふ傳あり身六

切と切と立ると下驛の馬ハ切られハ  
向一行す然れとも常に切とハすさう  
のときその綱とてぬゆ平日ハさす  
切ときあり凡と六つた業れ事ハ本  
心を失ふことあり也

一 鞍立と立されといふに二説の傳あり  
前の段といハ心の遠ひあり翔鷹はとく  
鞍ハ立ると心ハ立るとにちちといふ傳に  
くハなり為此馬ハ鞍を立るとかーく



乘へし物子のるも鞍の荒き馬も  
鞍をくまへしころむ馬ハ扶く乗へし  
但し馬によりく乗へし亦そ二つ此  
間より能馬ハ其間ほく乗へし鞍を  
扶きさきとふに二腕の傳り鞍  
荒き馬騎れりハ鞍を扶く乗へし  
扶む時もあり扶ぬ時もあり禪し中  
驛あれハさくし乗へし何きふも  
心置すむくりと乗へし此傳を心と

止る子を撫ハ取れ何きへし物るやう  
に乘へし則ち是ハ水月の位あり鑑を  
踏く踏われハ細流れ時ふんさき時ハ  
ふみうかへくさき時ハうかす免角きま  
らすに乘へし乗く乗れハ利を  
しころ強き馬ハ乗ぬハあさす弱き馬ハ  
乗れさけさきと可なり是も心を  
止ぬ傳るり引く引されハ是ハ強  
き馬ハ引れば皮薄き馬ハ引すに乘る



是馬によりくれば術なり切く切されハ  
込馬ハ切く強口にあつぬをなす  
その内少も切らぬと結むるハ切ること  
悪し然るゆへ心と止るあしといふこと  
なり平馬ありとも時にあつて切  
りあり、口綱も夫に弱りて手綱鞆  
ともに馬に應じること可なり

なればつれば理を心に治むまゝ如何する  
なり馬にとも乗れぬといふ事あり  
一 幸の曰く引く引されの子色紙巻  
にも

鞍立をくくせきれよと鑑をば  
ふしと踏うき引く引さ色  
とふ歌もあり斯の如く先師より  
傳へ置きたり馬ふより引時もあり  
引ぬ時もあり常に乗馬口利らり







いふ所あり是まゝとて傳へ湯山入道此  
傳に――是も六廣秀此傳あり武藏  
野と小庭に系りといふ事あり大切なる  
傳に――名も傳りゆ一文字をよれ  
記す宗形此教此傳――何まある  
にも因ゆ初説此傳に曰く義家公  
此五記常取此篇に此武藏野といふ  
事出より義家公より取て傳りあり  
く義經小傳り義經都落此節攝州住吉

此社へ右此五取の書を籠め置れ吉野  
へ落給ふ其後湯山入道中原玄性住吉  
官中より右此五記此書を中をとりこれ  
よりより此書を一二此秘法と改これ  
其中より此武藏野といふ事を此書  
にうつし置きよりこれハ譬ハ廣大あり  
こゝをさしと武藏野といふあり一  
さやう此所を乗くも小庭を系し同  
やうに草外ぬやうに乗る事ありを系



亦も武蔵聖といふ心を乗一よりく  
秘しく小庭にありと仰せらるやなり  
小庭を武蔵聖に乗りこしく武蔵聖を  
馬草即ちやうに乗りなりはも用を能  
覺悟とまは武蔵聖を小庭にあり小  
庭を武蔵聖小宗あり内れ輪外れ輪  
といふこと馬を乗入る子にく澄に旋曲  
れり網とあり漢にく何れ馬も  
すの輪より乗入るゆへ此の網を大なり

さる勿論後も此輪にく乗直すことあり  
常に内れ輪といひく返す内れ輪へ  
目をまきひ返するなり返り無り馬の外れ輪  
へ目をまきひ返すを馬れ造と名  
二つれものを能折まき返るより外  
れ輪を用ふるもあり内れ輪を用ふる馬  
も有り是輪を乗傳法とす外れ輪ハ  
返り難き馬の外れ百會を目付に  
輪を乗廻るとも急に内れ方を見く



内へ廻するに外へ廻すと思はせ急  
に内へ廻すあり

一輪に直ぐぬ馬ハ山すく直す子初  
傳ハ馬を教へて直す傳あり如何や  
此馬少ても輪を以て直す此輪は兼あり  
古來は傳あり故に義家公は傳ふも一  
圓三角は傳といふ事あり是輪のなり  
馬は本道ハ方ありそのなり一圓ハ如何  
しと知るるとありハ方なり物を以て

渡りをかゝる圓くあり所を知り方あり  
物を引廻し見ると時ハ一圓とあり天は  
圓あり故にわつと三つなり陽ハ進むれ  
理半數を用ゆると三角は傳といふ  
あり地性を陽に物と陰曲を直とあり  
和漢とも輪は兼入りなり夫故品  
は輪系あり曲を直す輪は傳息を入  
輪は傳あり是は輪は直あり曲はあり  
馬を輪を交りといふを知らも恐れ



所あれハ用に立すよりハ教を設け山  
に直すハ一傳へらまじしハ我心を  
大山不動れ道少ハ一乗と云ハ何れ  
馬にハ乗せしきハ一阿のまじハ輪宗ハ  
心にハむすありハ一怒ハ一上ハハハ  
をせハ勤ハ一友に心強クハ一乗ハ一  
適を重ねハ一乗を山に直ハ一説り  
此心に常ハ輪宗に直ハ一ぬハ一ハ小  
輪に廻す習ハ一ハ大輪小輪ハ一傳あり乗

人ハ寛にありハ一阿ハ一詰ハ一急に乗車  
阿ハ小輪ハ一乗ハ一あり輪ハ一ハ一  
馬にハ一替ハ一あり馬に依ハ一ハ一日  
も輪を乗ハ一阿ハ一山ハ一直す  
ハ一ハ一一段位を進ハ一ハ一ハ一  
口を入ハ一ハ一此心得可あり

一山ハ一直ハ一ぬ馬ハ一川ハ一直ハ一ハ一見  
ハ前ハ一大山ハ一勅ハ一象にありハ一ハ一  
ハ輪ハ一乗ハ一ぬハ一乗ハ一採ハ一巡ハ一



ゆへあり系とてうり心得くも馬は位  
の知是さうり時ハ系構れ巡り甲斐あり  
あり上驛中驛を馬其馬は程に合ひ  
く乗機は位を知りて川は水は體に  
取く水ハ系構の辿りに際へてうり  
水ハ方圓は器に後ハ理あり故に系構  
もめくくされハ馬直らすそ川水は滞  
るもあり流是れを心に覺へ乗る子  
を教く川もく直すとて段々細くに馬は

位にまうりのつて心に物り口決あり山  
もく直すとて川ハ乘易く川もて系あり  
つハ委く飛りれりところあり勇ハ  
飛りれ前うこあり川は體あり則ち  
地に象り地ハ馬は性馬は位を能知  
るにまうく山にく乗ハ勇あり川はく  
系直は智と知りて  
一川はく直らぬるハ治まく直は是古  
川は體水は心に後ひくも馬とあり



所直らす一旦直りてくもつ發るこゝとあり  
は位少く直り難き時ハ治の法を以て  
直す一ハ是ハ前よりも上ハ此後より  
夫治といふハ水土合體其理をさして一ハ  
先陰陽合體其理にい一ハ其子にい一ハ其  
母あり凡畜類を陰陽其二つを以て其形  
をなす其陰陽に由て一ハ理を以て和合  
一ハ直すとて子あり其生息を以て和合  
はをなすといふ是皆陰陽其御き陰陽は

變によりて心奪田一ハ可し其氣に  
よりを變に應一ハ強弱合體其理を以て  
直すと一ハ水も流も過ると一ハ土も過ると  
水土合一ハ強弱の教を施す時ハ馬と  
從少といふ一ハ物も過ると一ハ急一ハ合體  
其理あり乘内よも一ハ急ありま一ハ引  
少も強弱あり在る子あり晝夜あり  
子もあり急ると直に脱る子もあり  
急りゆるるもれハ直にも脱る此理を以て



このなりし此理ハ殊外むつしき法位  
小をまうりししきすに合はれ  
理を修りししき大切なる傳法なり  
なり

一 沼より直らぬ馬ハ繩に直すハ  
是ハ沼に直らぬ馬ハ繩を以て乗  
せしむるハ然るゆへ繩を以て乗  
事と説りし繩の用ひしハ馬に  
てあり先初め小馬ハ京山やうに傳

小庭を武藏聖に乗りし傳ふ夫より因  
此輪よりふし傳ふ夫より一段上へ此位  
はく智しぬしを馬に問ひ次に違心  
と違心れしを説り惡を誡る道を山川  
治を以て直す理を傳ふ也よすても  
直らぬ時ハ刑罪を用るしを傳ふ誠  
に委細なる傳ふなり何れれ道も細  
なり所を尋らししきハその道成就する  
先師此細なる教を傳ふより能く師



侍を工夫し昼夜厲み修行しし  
油断ありし時深切委細なまじり  
習ふも其惡を承けし中絶するこゝ成程  
一或ハ世子にしりこれ其意を承くる  
あり武門は第一今古武藝は最上とす  
貴賤は者も稽古とす一馬ハ人於是なり  
何事も馬にまじりて人ハ切をなすも切  
りすしお物れを人少くも馬上にゆく無  
藝れ人に劣れりゆく達し後お物

此達人にも腸の理あり是を以て能稽古  
とす

一武藏野を小庭に意をす其理をりり  
くもあり百歩あり武藏野ほとけ庭野  
少くも其内に備ふれ方と立く乗付  
何程に庭野にゆくも小庭に準す其方に  
方を定めす乗付勞れとあり其方を立  
く乗し幸ハ馬も勞れす自然に馬もそ  
位にまじりし武藏野を小庭小庭と



い、摩、大ひ、所、格を定、宗  
れ、法も乱、度、奪、時、  
其法乱、業、後、馬、  
す馬、人、用、武、  
に限、度、心、  
外に奪、法を教、業、  
とす

一 小庭と武藏野に寄る初傳に、小庭  
少く馬勞れぬゆ、武藏野に、業、

を傳へら、此傳ハ、  
も、小庭に、狭、  
心も小く、所を、  
つ、或ハ、  
くも心を置、則ち、武  
藏野、思、つ、業、  
なり馬も、文、場を、  
なりより、小庭を、武、  
説ハ、大、此、其、



應——く乗——彼傳は此傳と先師  
於教の通りを請け馬ごも此位ひを揚  
によりく田のれ安きに在る此二傳と  
何れとも宜——き傳あり一度に初説後  
説を用ひり予も阿る勿論時に授ひ變  
に應——馬は位揚は位を知り——唯そ  
氣は離る事を知る馬は素人の氣  
と交る進退少も素人の氣を交る依  
く此所は傳も心氣と以て乗ることを

傳ふ馬は心を乗人れ心に弱——く乗る  
こと我ながらも我心の上——浮みく小座  
も心ふらつるなり内は輪外は輪といふ  
予初傳にいふ所の強く交る互りある  
馬は外は方れ百會一日を付返す常ハ  
内は輪に目を付く返す變はよりくハ  
外は輪を内外方用と——外は輪とハ  
馬は口強き方と外に——弱き方を  
内に——く綱を詰内へ廻す強き方を



只あり私々々々のなり内れ輪の馬  
れ口の弱き方力と付く強き方を内  
一く弱きに氣を拵せらなり内れ輪の  
強きを内れなり内れ輪の強き外に  
とら内れなりあり馬よりなり此輪  
と系一然るゆへ是も内れ能とも一  
定一能一馬によりく輪を施せ強  
弱を系なり阿の弱く系なりあり  
是馬に内れなり輪より心と付く

一  
系一馬の強を系け弱を系け相  
應するゆへ系人に従ふ馬と能ん立系  
一  
一輪に直く直くぬ馬の山に直く直く  
初説ハ一圓三角れ古法を以て輪を系  
子を説くさくを物少くも直くぬ時ハ  
我體を大山の勸れ心にありなり  
山より直く直く一とく輪を系上より  
いなり寛く小輪を系と強く系との



二つは上を流す河まはれるは此悔を  
後すしつふ子あし此所は流すは  
痛に糸子さくく曲馬は類くも直  
らぬ子ハたしつふ子と説く然れ  
ともその内輪に入らる馬ありそやう  
なる馬ハ輪に糸くく山く直す  
し此所は傳ハ右は通り輪少くはさぬ  
馬ハ高揚少く引さぬより山へ乗るより  
下口強きハ坂へより前輪にのり引

けハ直る下す時ハ手綱と免し  
し上口強きハ下り坂小後輪のり  
引し直る自の鑑る上り時ハ手綱  
と免し乗し然る時ハ能くも入曲  
も直るなり輪少く直すハ高揚小  
く乗すし惣く曲と直すハ高揚  
系り山坂少く乗るより可なり然る時ハ  
腰根能入る物少く付る曲も忘れ  
直るなりを系り山坂系り數遍を収



乗つて然る時ハ大輪に何通も意心に  
あり上下の口も自然と和しく之強引  
も懸し引さらも懸し何れも懸入  
北難き事ハ譬ハ上下此口を無んし  
思ひ右此通り山坂を登り初傳ハ  
心此上に付これ傳此所此傳ハ業に  
付これ傳あり心と業と一致し  
此所に説り唯輪を乗ハ一切此馬を直  
き子なり右に是傳を辨一輪を乗

き子と秀も説たり

一山はく直くぬるハ川はく直す也  
初に心ハ山此體ハ業を乗し  
を乗し流る子あるハ業機此流る  
さるゆへ心ハ直くぬるハ是も心此  
上此傳より直くに心ハ山此心を以  
て業人も業りゆへハ初に心ハ  
水此心を以て業傳あり水此流れ巡  
りて變に心ハひり子を以て巡るハ



これに馬に従ひ業を施す子を  
さく巡るといふ後傳ハ其れ如く輪  
を宗うこき馬ハ山坂へのれ坊に  
と六川伏をしく山坂もくも直るぬ  
るハ川もく直るし馬水に恐る水  
に恐る水のさくハ川水に引ぬ  
なりぬをさく川伏をさるはさる  
度水とんせくぬに引入る船に  
も載せをさるく度試むし此傳ハ

業をさくさるなり上中下は驛も  
に此傳をさく直す時ハ下地より直る  
ゆへにさくさるなり其業をさく  
單外もさるなりさるなり草外  
直るハ本は曲出るさる馬にさる  
せく直るさくぬを恐るさるハ水に  
直るぬさく曲ハ馬坊もさる直す  
し心得るぬさるなり曲は本を  
見此傳は通る山川を宗はく直すあ



りすこ馬物系よく直す所ありほしく  
を考へ本は曲を考へ素あり自然と  
口心も和しくはる子より馬れむよく  
彼ふを清ふすよく教は法を知り辨ふ  
べき子汗要より卯は業も也まてに  
相應する子なり相愈する時ハ何は  
曲も直らきまきあはれ直らぬハ此方  
れ見尚遠くあり此曲ハ何より出る  
と心と付く見えし一怒まする所と起

るとれ二つを見分け直すハ一夫をん  
出さすマ程に直すゆハ馬も痛み痛  
とあり三戒とくふよも戒る所あり  
也まを知らすに戒むり時ハ馬痛く  
用に立す曲を直すとハちを戒め教  
て能はる子と第一とて口ハ責る  
事と表にらるハ大むる非なり馬ハ  
教へ戒る子とまてす川はく直さぬ  
るハ治まて直すハ一治ハ水土合體



於理あり後ゆ合體於理をわふ夫を  
馬に物くく山川く直ぬるハ沼  
はく糸あり磬ハ山川く兼心あり  
或ハ戒め或ハとを引物く糸教を改し  
馬ハ氣小合とく直とく子と馬ハより  
後傳古山く直ハ川少く直ハ水と  
恐る馬ハ川少く直す無意とも夫少く  
直くぬるハ沼はく直す是れ揃ハるハ  
是に曲ありも沼は是より所少く糸

直すハ一足と和くるに可なりまは是  
まく乗けを用ゆ悪き所を教ハ戒り  
衆方あり此傳まく少く直らぬ事大  
方ハありハ

一 沼少く直らぬ馬ハ繩少く直すハ一  
沼にく直らぬ馬ハ罰せぬハありす  
教を背く馬ハ繩をひく直すあり  
糸繩ハ色く糸やうあり勿論曲に從  
ひ繩を用ゆはは於傳ハ山少く教ハ川



小く弘く世に流れ是れ入はましく業を  
し直くぬ馬なりけり此の馬ハ矯れ  
なりす矯るも心を折り事なり戒  
るもハ法を以て責むを以て直すといふ  
責むといふも遠ひけり矯るもいふも  
木は曲りたるを直すやうに志つと悪き  
所を矯く直すよりなり前法傳にもハ  
遠ひあり戒るはいふなり少く和の  
なり法あり教は法は直し方あり

百三十一



